

市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民懇談会
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成29年12月7日（木）18時30分～20時00分 ・南稀府会館
所管部課名	企画財政部企画課
<p>【概要】 <出席者> 市：企画財政部長、教育部長、建設部参与、企画課長、財政課長 事務局（企画調整係） 住民：27名</p> <p>1. 開会 2. 企画財政部長挨拶 3. 説明 4. 意見交換</p> <p>【住民】 去年の懇談会の中で、市長が稀府の土地利用について「村上農園」の誘致を検討していると話していたが、進捗状況を教えて欲しい。</p> <p>【事務局】 工事予定等の計画は進んでいないが、来ていただけるという話で進んでいると聞いている。</p> <p>【住民】 市民アンケートの回収率を教えてください。</p> <p>【事務局】 回収は終わっている。3,000件配布し、約1,150件を回収した。先日の審議会でも、最近のアンケート調査では回収率が3割を超えることはまれであると説明したが、今回は4割弱の回答を頂き、伊達市民のまちづくりへの意識の高さを実感した。</p> <p>【住民】 稀府地区には店が一軒もない。配付資料にある通り、今後は75歳以上の人口も増える。免許返納の動きも強まる中、高齢者が買物に不自由している。市に金銭的負担をして欲しいということではないが、店の斡旋をして欲しい。 東日本大震災の時に、広報車による避難指示があったと思うが、何を言っているのか聞き取れなかった。有珠地区には防災スピーカーがある。先日の北朝鮮によるミサイル発射時も、街中は防災スピーカーの放送があったが、稀府地区では聞こえてこなかった。稀府地区にはそのような設備がないので、予算がないとはいえ地域に区別なく取り組んでほしい。</p> <p>【住民】 店の問題については、スーパーをつくっても利用する人が少ないのでどうしようもないと思う。住民のほとんどがそこを利用すればいいとは思いますが、車を持っている人は室蘭市中島町の</p>	

大型店に行ってしまう。それではコンビニでも良いのではないかという話になる。他の地域では、少人数の利用でも経営が成り立つ店の開業を考えていると聞く。しかし、住民意識の問題だと思う。

以前コンビニはあったが、撤退してしまった。コンビニでも良く、例えば、セイコーマートは過疎地にも出店してくれるので、住民や学校とも話し合いをしなければいけないと思う。

【住民】

店を出してもらっても、利用数が少ないので撤退することになると思う。生協等の宅配サービスを利用する人も限られている。農協が週に1度バスを出してくれていて、それを利用する人は多い。豊浦町では店がなくなったことから、ウロコがバスを出すようになった。市で店を出してもらおうより、車を出してもらおう方が良い。愛のりサービスもあるが、決まった時間に出るバスがあれば、利用する人も増えるのではないかと思う。店よりもその方が良い。

【住民】

コンビニでも良いから店が必要である。宅配サービスも良いが、自分で品定めをしたいという人が多いと思う。

【住民】

セイコーマートなど、24時間営業で惣菜や野菜を置いている店が過疎地にもあるとテレビで目にする。高齢者等身体の弱い方には、そういったコンビニでも良いのかと思う。ただ、伊達の市街地に出でいける方が私には魅力的である。買い物に限らず通院等でも、バスは1時間に1本で、愛のりサービスは復路での利用が難しいため、時間を決めて回ってくれる送迎サービスがあれば1番利用しやすい。

【住民】

人口問題として、店の問題や買い物難民の問題もあるが、稀府地区は伊達市内で高齢化率が3番目だと聞いている。第3自治会には200世帯程度あるが、75歳以上の人口は140名を超えている。総合計画は10年間の計画であることから、この地区はその間に高齢化率が相当高くなると考えられる。現在車に乗って買い物に行く人が多いという話があったが、高齢者の運転は問題になってきている。買物弱者・通院難民が増えることも考えられる。また、医療の観点からも、将来を自分の家で過ごしたいという高齢者もいると思うので、その対応も必要だろう。総合計画にあたっては、店の問題だけではなく、今後10年間を考えなくてはならない。

また教育に関して、小学校・高校の統合が問題になると思う。稀府地区から公的機関がすべてなくなってしまうことと、高齢化を考えると、今後稀府地区はどうなってしまうのだろうと思う。若い人は店も何もないところには来ないだろうから、ますます高齢化率は高くなるのではないかと心配している。例えば、小学校や公営アパートを置き、若い人を呼び込むようなことを市には考えてもらいたい。空き家が増えている状況も問題である。

議会でも問題になっていると思うが、現在小型風力発電機が建設中である。連合自治会としては反対を表明しており、このまま進められてしまうと、今後伊達市の空き地に風力発電機がどんどん建っていくのではないかという懸念がある。それを阻止するためのガイドラインを定めて欲しい。全国の市町村の中には、このようなガイドラインを定めているところがあるので、検討して欲しい。

【住民】

資料の「人口の将来展望」について、生産年齢人口は15歳～64歳となっているが、今は15歳から働いている人はおらず、ほとんどが高校へ進学する。定年が65歳である企業もほとんどな

く、65歳まで働けるところは少ないと思う。統計を取る時に、この年齢区分について考え直して欲しい。

【住民】

資料の「人口の将来展望」について、今後は若者の人口が減り老年人口が増えていくと推計されている。伊達市からの若者流失を防ぐための取組として、伊達市内に魅力的な産業や雇用をつくるのが1つの解決策だと思う。伊達野菜はブランドとして有名ではあるが、もっと細かいブランド化、例えば小樽ワインのようなブランドが必要だと思う。農業に限らず、何か特徴づけをすることで、若者に働く意欲を提供できるのではないかと思うので、ぜひ若者の定住という点で施策を検討して欲しい。

高齢者については、独居老人が孤立してしまうことがあるので、自治体等でのコミュニティづくりや相互扶助に関して制度をつくるなど、盛り上げていく必要がある。

【住民】

伊達市の産業については、市税の増収につながるため取り組まなくてはいけない。伊達市は元来農業が盛んであり、北海道全体の傾向としても第一次産業が多く、収穫物やその加工品の販売をしている。従来の家族経営ではなく、農業法人の誘致やそれに伴う加工業の誘致等、市として農業に取り組むべきである。稀府地区をはじめとして、伊達市内には休耕地がたくさんあるので、そこに農業法人や加工企業を誘致すれば、それに伴って道内外から若い人の流入が見込めると思う。伊達市として、野菜や加工品を全国的に販売することをバックアップして欲しい。

また、稀府地区には中学校の廃校舎がある。東川町では廃校舎を外国人学校として利用しており、語学研修生として、普段は農業研修を受けている若い外国人を受け入れている。農業とのつながりもある上、そこで働く教員の雇用も生まれる。東川町では退職した教員を雇用しているようだ。稀府地区の廃校舎の活用についても考えて欲しい。

北海道は観光にも力を入れており、新幹線がもう少しで長万部まで到達する。胆振・日高の市町村が協力しなければいけないと思うが、観光客をどう呼び寄せるかということを考えて欲しい。例えば、長万部から東室蘭までSLを走らせれば観光客が増えると思う。将来の観光について考えて欲しい。

【事務局】

新幹線を最大限活かしていくことについて、伊達市だけではなく広域で、例えば長万部から洞爺、登別、2020年にできる白老の国立博物館等、自治体の枠にとらわれずに連携し、集客することが重要であると理解している。

稀府地区は伊達の市街地と室蘭市の間に位置しており、現在はゴミ処理など、広域で様々な取組を先駆けて行っている。

【住民】

市役所内に、企業誘致をする部署はあるのか。

【事務局】

企業誘致については商工観光課が担当している。これまでにも、移住と合わせて企業誘致に取り組んできたが、なかなか実を結ばない現状がある。先ほど話に挙げた「村上農園」は、久方ぶりの大きな誘致になると思っている。

【住民】

「道の駅」が伊達の知名度をあげ大変評判だが、第二の「道の駅」として稀府地区に何かできればいいと思っている。より伊達の知名度を上げ、特産品をアピールしていくことで人を集める方法を考えるべきである。伊達市に若い人が定住するという点に関して、稀府地区は伊達市街よりも室蘭市に近く室蘭市の街や職場へのアクセスが良い上、地価が安いので、若い人を呼び込めるのではないかと思う。そういった取組も進めていただきたい。

また、学校がなくなることは地域の疲弊や人口減の加速につながると考える。大きい学校に通わせたいと考える人もいるとは思いますが、小さい学校での目の行き届いた教育が魅力になることもあると思う。1学年2学級に満たないと統廃合の対象になるが、人数で考えるのではなく、学力や人間性等教育の質の観点で考えて欲しい。学校は残してほしい。

【事務局】

先ほどの店に関して質問する。車の運転をしない方は、買い物や通院等の移動手段に何を使っているのか。

【住民】

バスを利用している。

【住民】

夫の運転を頼りにしている。

【事務局】

稀府地区等市街地から離れている地域では、車がないと生活が不便であるし、地域に店がないと普段の買い物1つでも不便さがあると思う。この地域にも移動販売車は来ているのか。

【住民】

生協が週に1回来ている。

【事務局】

コープのトドックやセブンイレブンの宅配サービス等を使っている方はいるのか。

【事務局】

宅配サービス等を利用する以外は、車を運転して買い物に行く方がほとんどである。将来的に車を手放すことになるだろうが、地域に店がない。地域に店をつくるか、店をつくらずに街への移動手段を確保して買い物に行くかの選択になると思うが、通院も含めて公共交通手段・移動手段の確保がより重要という認識で良いか。

【住民】

高齢になると車を運転できなくなり、伊達に買い物をしに行くとなるとバスを利用することになる。今のバス運賃は往復で約500円であり、伊達市街に住んでいる人よりも高い買い物になる。それを少しでも抑えられるようにシルバーパスのようなものを発行してもらえれば、相乗りタクシーよりも便利になると思う。1時間に1本しかなくとも、それがあれば買い物や通院に使えるのではないかと思う。

【住民】

室蘭や登別は、シルバーパスのような年齢制限があるもので割引が受けられると聞いた。

【住民】

無料でもなく、少し割引があるようなものがあると良い。

【住民】

弄月の温泉について、壮瞥町では、65歳以上は現在200円で利用できる。伊達でも利用料を安くすれば、腰痛・膝痛などで整形外科に通院している人が利用しやすくなるのではないかと。曜日を限定するのではなく、1回300円などと安価な固定料金を設定すれば利用者も増え、いくらか医療費の削減にもつながるのではないかと思う。壮瞥町の温泉をよく利用しているが、その利用者は自宅の風呂ではなく温泉に入りに来ると言っていた。

【事務局】

外出する機会をつくることは、健康面にも良いと思う。

【住民】

弄月の温泉の割引は、今は毎週木曜日であり、70歳以上が対象であるが、65歳以上でも良いと思う。利用料を下げ、曜日を指定しなければ利用客が増えると思う。壮瞥町は5人以上で行くと団体割引が受けられるので、子どもたちが来るとみんなで入りに行くことがある。

【事務局】

大滝区に、市が設置している温泉が2か所ある。無料で利用できるのも、大滝区の地域活性化のためにもぜひともご利用いただきたい。パークゴルフをした後に、市営の温泉に入っていただけと思う。

【住民】

大滝区は遠い。

【事務局】

市街地からも少し遠いが、旧国鉄の胆振線の代わりにバスも運行しているので、その利用促進も含めて温泉を利用してもらいたい。

【住民】

伊達市としては、観光客の呼び込みについて何か具体的に検討しているのか。例えば、稀府地区はこれだけ土地が余っており、弄月に温泉が出るのだから、掘ってみれば温泉が出るかもしれない。その温泉を利用して、富良野のような観光農園をつくれませんか。そうすれば年中通して伊達市に観光客が呼べる。観光客の呼び込みは攻めの姿勢でやるべきだと思うので、ぜひとも検討してもらいたい。

【住民】

図書館を新しくする予定はないのか。

【事務局】

図書館については、昨年「あり方検討委員会」というものを立ち上げ、市民の意見を集約しているところである。それに伴い、来年度にむけた「図書館運営基本方針」を策定している最中である。市民の意見の中には、現在の図書館のサービスには満足できない、もう少し広い図書館にするべきといった意見がある。これからもパブリックコメント等で意見をいただき、来年度までに方向性を決めていきたい。

【住民】

現在の図書館は狭い。もう少し広々としたスペースで、周りの人を気にせず、景色を眺めながら一人本を読む時間を楽しみたい。

【事務局】

「あり方検討委員会」のなかでも、同様の意見があった。「子供の読み聞かせスペースと大人の読書スペースが近く、子供が騒がしいので分離して欲しい」、「外の景色を眺めながら、コーヒー片手にゆっくり本を読めるようにして欲しい」といった意見もあった。これらを踏まえたうえで「図書館運営基本方針」を策定している最中である。実現するかはわからないが、意見を取り入れながらつくっていききたい。

先ほど、若い人が伊達市から出ていってしまう、残ってもらえるように何か考えなくてはいけないという意見があったが、伊達市から出ていくというよりは、日本で言えば東京都、北海道で言えば札幌市に極地集中してしまう状況は、日本全国で起こっていることである。教育委員会でも、小学校1年生から中学校3年生までの義務教育期間で、伊達市について勉強する機会の提供を検討している。最終的には中学校3年生で、市長や議員になったつもりで伊達市について討論してもらえるように、子どものうちから伊達市のまちをどうしていくかを考えてもらう学習機会をつくりたいと検討している。できれば高校3年生まで通して勉強できる機会をつくるため、現在教育長が中心となり考えている。教育委員会では、来年度に形（仕組み）をつくり、新しい指導要領が出る2020年から始めていきたいと考えている。もう少し明らかになれば教育長から話があるかと思うので、それまでお待ちいただきたい。

【住民】

風力発電に関して、ガイドラインをつくることは必要である。現在私の家から100メートルほどのところで建設されており、50メートルほどのところには2機ある。敷地の境界のところにも1機あり、そこにはあと2機建つと聞いている。生活に不安がある。市で建設許可というものは出しているのか。できてしまったものは黙って見過ごさないといけないのか。

【事務局】

今回の議会に請願も出されており、これから議会内で市も含めて話し合いをすることとなっている。担当がいないので詳しい説明はできないが、風力発電の建設に関する権限は市にはなく、北海道やさらに上の機関になるので、その点も含めて議会で議論していく。

【住民】

第七次総合計画の中では地区別計画を策定しないとのことだが、その点についての市の考えを教えてください。

【事務局】

例えば、市街地とその周辺ということで、これまでは地区別計画を策定してきた。第六次総合計画の中では地区別計画として記載しているが、実際は第五次総合計画内で行った住民との意見交換で出てきた、地域の課題とそれに対する提言をまとめたものである。実際に問題の具体的な解決策の方向性を示すものではなかった。

また、2年前に国勢調査があった。市街地の人口はそれほど減っていないというイメージを持っていたが、平成27年度の調査結果と平成22年度とを比べると、地区単位で人口が減っていないところはなかった。中心部でも人口は減り、さらに高齢化率は上昇し、市全体の出生数も年間で200人を切っている状態である。

当然地域ごとのビジョンを持つことは大変重要であるが、市全体でどうしていくのかを考え

ていかなければいけない。それはもちろん大滝も含めてであり、今回の総合計画では大滝区の特別な計画もつukらない予定である。地区の人にとっては不満もあるかと思うが、今回の総合計画は市全体でまちをどう持続させていくのかという視点から策定したい。

【住民】

防災スピーカーについてはどうするのか。

【事務局】

防災無線には2種類ある。1つは消防から流れる放送であり、市全域に張り巡らせてある（「Jアラート」も含まれる）。もう1つは、2000年の有珠山噴火時に、有珠地区と長和地区に重点的に整備したものである。恐らく音が聞こえなかったというのは、有珠・長和地区では有珠山噴火で整備したスピーカーから放送がされたため聞こえやすく、その他の地域ではもともとあった防災無線からの放送のみだったため、有珠・長和地区に比べて聞こえづらかったのだと思う。現在は防災担当が防災無線の整備について検討しているところである。また、全国各地で無線や通信に関するものはデジタル化しているが、大きな費用がかかるので、必要性を踏まえて対応を検討しているところである。

広報車については、どうしても暴風雨時は音がかき消されてしまうことや家の気密性の高さにより音が届かないことがあるため、情報伝達について今後どうしていくのか考えなければいけないと思っている。例えば、「コミュニティFM」を使ったラジオでの発信方法、広報車や防災無線の使い方についても、総合的に考えていかなければならない。今すぐどうするという返答はできない。

【住民】

長和地区・有珠地区には、デジタル、アナログに関わらずスピーカーがある。しかしこの地区にはないので、アナログでもいいからスピーカーをつけて欲しい。同じ伊達市民なのに差があるのはおかしい。携帯電話を持っていない人もいる訳だから、命に係わるものは早急に設置して欲しい。デジタルにするというのは設置済みのところの話であって、ここはもともとない。

【事務局】

防災無線に関しては、伊達市街地の館山公園に1つあるが、有珠地区・長和地区以外はみな同じ状況である。

【住民】

防災スピーカーに関しては、地震後津波に関して非常に話題になった。連合自治会として、市に防災スピーカーを早急に設置して欲しいという要望書を出したが、稀府地区よりも黄金地区の方が状況が深刻であるので、順次設置するという返答をもらった。しかし、今の話を聞く限り、全く進んでいないように思える。

【事務局】

担当不在のためきちんとした回答はできないが、要望書の返答の通り、防災担当で検討は進められていると思う。

【住民】

国道の問題について、豊浦町まで行く道にトンネルが2つあるが、あのトンネルは大丈夫なのか、今にも崩れそうだ。また、伊達市街の高速から降りてきたところの国道が非常に混み合っている。国の管轄であるかとは思いますが、4車線にできないのか。4車線の構想があるのなら、黄

金地区の信号まで4車線にして欲しい。

【事務局】

豊浦町の2つのトンネルは老朽化しており、有珠山の噴火時も危険性について話が出ていた。トンネルの改修については、伊達市・洞爺湖町・壮瞥町・豊浦町が連携して国に要望を出している状態である。トンネルが古いこと、国道として他に確保できるルートがないこと、高速道路が函館まで通っていることから、国はかなり慎重な姿勢をとっており、必要な改修はその都度行うという回答で、そこからはなかなか進んでいない状況である。実際全体を改修するとなると、道路を違うところに通す工事になると考えられるので、今すぐに直すことは難しい。国に対しては、危険性や必要性を自治体として訴え、継続して要望を出している。

インターを降りてきたところの交差点については、この近隣で最も混み合う交差点だと思っている。4車線化の要望も国に出しているが、橋の問題や道路の拡張が難しいとの回答であった。右折・左折レーンの設置や色分け等の出来る限りの対応は国が行っているが、抜本的な改修は難しい状況である。

【住民】

広域での取組に関して、先ほどゴミ処理施設の話があり、伊達市も資金を出しているとのことだった。その場所にはプールがあるが、室蘭市民だけ利用料金が安い。広域の地域外住民が高いのはわかるが、伊達市も負担しているのだから、伊達市民の利用料金も室蘭市民と同額にすべきではないか。200円、300円程度高いという話を聞いている。

【住民】

稀府地区もこのままいくと限界集落になってしまう。それを避ける為に公共施設をつくって欲しい。先ほど話に挙がった、公営住宅や道の駅といった施設の建設について、総合計画の中で検討していただきたい。

【住民】

学校の統廃合問題について、教育面から考えると、特に小学校はある程度の人数がいなければ競争力がつかない等、大人数・少人数のメリット・デメリットがある。ただ、学校は教育だけでなく、地域住民が顔を合わせたり、若い人が運動をするなど、人々の交流の場所にもなっている。その交流の場が近くから無くなると、コミュニティがなくなってしまう。経費がかかるからと簡単に切り捨ててしまうことに疑問がある。このようなことも踏まえて総合計画を策定して欲しい。

【事務局】

小学校の統廃合については、今現在、市の方針として全校児童数16名以下の学校を統廃合対象にしている。現在教育委員会が各地区を訪問し、2020年からの新しい学習指導要領は従来のものとは内容が大きく異なることを説明している。新しい学習指導要領は、子供たちのディスカッション能力がこれからの社会で求められるということを示しており、そのためには1学年2クラス以上の子ども達が集まることが望ましいとしている。このことを説明するために各地区を訪問している。稀府小学校をすぐに統合する方針で動いている訳ではないことをご理解いただきたい。先日も、保護者や地域住民に説明し意見交換をしたところである。地域に学校が必要だということも重々承知している。保護者の気持ちや地域の気持ちを無視して、今すぐに伊達市内の学校を統廃合するという話ではないことをご理解いただきたい。

平成29年12月開催

第七次伊達市総合計画に係る

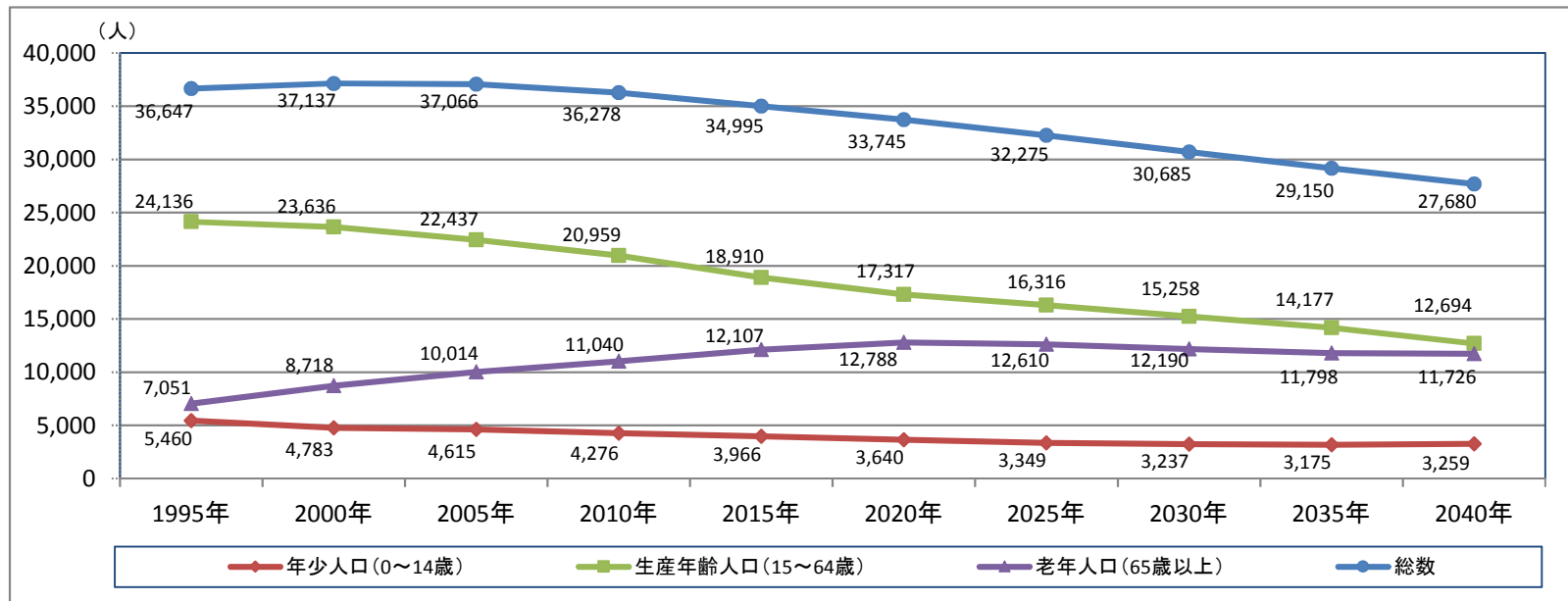
「住民懇談会」

伊達市企画財政部企画課企画調整係

■人口の将来展望

年代	実績値					推計値				
	1995年 H7	2000年 H12	2005年 H17	2010年 H22	2015年 H27	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	36,647	37,137	37,066	36,278	34,995	33,745	32,275	30,685	29,150	27,680
年少人口 (0～14歳)	5,460	4,783	4,615	4,276	3,966	3,640	3,349	3,237	3,175	3,259
生産年齢人口 (15～64歳)	24,136	23,636	22,437	20,959	18,910	17,317	16,316	15,258	14,177	12,694
老年人口 (65歳以上)	7,051	8,718	10,014	11,040	12,107	12,788	12,610	12,190	11,798	11,726
うち 75歳以上	2,859	3,799	4,648	5,647	6,280	7,007	7,922	8,216	7,856	7,384

※2015年9月策定の伊達市人口ビジョン「人口の将来展望」に、2015年国勢調査結果を反映し再推計したもの。単位は「人」



■ 財政見通し

